

氷川町の未来 高専生が提案

八代市 空き家リノベーションや畳表の活用

氷川町のまちづくり研究に取り組む熊本高専八代キャンパス生の発表会が5日、八代市の同校であった。地域振興に関する連携協定締結を機に2021年から始まり、5回目。24年度に学生が実施したフィールドワークの成果を町職員に報告した。

二つのテーマで発表があり、一つ目の空き家リノベーション計画では、子ども食堂の設置によるにぎわい創出や、地元名産の畳表を活用した交流スペースを提案した。

二つ目のＪＲ有佐駅周辺のまちづくりでは、車の交通量が多い環境であることを踏まえ、歩車分離による歩行者の安全確保や、緑化の推進の意

見が出た。

講評で平逸郎副町長が「都市計画を若者と考えるのは貴

重な機会。これからも学生の視点で考えを発信してほしい」と述べた。建築社会デザイン工学科5年の外野木海尋さんは「フィールドワークを通じて地域の未来を設計するのは楽しい体験だった」と話した。（水田智）



氷川町職員（手前）と意見交換する熊本高専八代キャンパスの生徒たち＝5日、八代市